

解禁	テレビ、ラジオ等	3月30日(日)
	新聞朝刊	3月31日(月)

記者発表資料
平成20年3月28日
教育委員会高等学校教育課長
手老貞行 671-3289
教育委員会職員課長
西田秀男 671-3795

横浜市政記者、横浜ラジオ・テレビ記者 各位

平成21年4月開校 横浜サイエンスフロンティア高校 開設準備室長(校長予定者)が決定

平成21年4月に開校する「横浜サイエンスフロンティア高校」の開設準備室を4月1日付けで設置し、校長予定者となる室長に、前神奈川県立柏陽高等学校校長の佐藤春夫氏を採用することに決定しましたので発表します。

1 氏名

佐藤 春夫(さとう はるお)
昭和22年2月生(61歳) 男性

2 経歴

昭和40年3月 横浜市立南高等学校卒業
昭和44年3月 東京学芸大学教育学部数学科卒業
昭和44年4月 神奈川県立柏陽高等学校教諭
昭和50年2月 神奈川県立金井高等学校教諭(新設校兼務発令)
昭和58年1月 神奈川県立大船高等学校教諭(新設校兼務発令)
平成元年4月 神奈川県立湘南高等学校全日制教諭
平成7年4月 神奈川県立湘南高等学校定時制教頭
平成8年4月 神奈川県教育庁管理部教職員課専任主幹
平成11年4月 神奈川県教育庁管理部教職員課課長代理
平成12年4月 神奈川県立神田高等学校校長
平成14年4月 神奈川県立柏陽高等学校校長
平成19年3月 神奈川県立柏陽高校校長を退任



データをご希望の方は、高校教育課までご連絡ください。

3 任用方法

(1) 身分

「横浜市一般職の任期付職員の採用及び給与の特例に関する条例」に基づく「特定任期付職員」

(2) 任用期間

平成20年4月から平成25年3月(5年間)

*平成21年に開校する「横浜サイエンスフロンティア高校」の開設準備から、第1期生の進路指導及び卒業後の検証を行うために必要な期間

4 選考経過

市立高校、県立高校、私立高校の校長及び校長経験者等の情報を収集し、次の掲げる観点から選考を行いました。

*裏面に続きます。

- 教育改革に情熱と意欲を持つ人材であること。
- 学校経営・進学指導にも経験と実績を持つ人材であること。
- 大学・企業等との連携に調整能力を発揮できること。
- 開校当初に優秀な生徒を確保することが不可欠であるため、中学生や保護者、学習塾等を含む教育関係者に対して信頼感、期待感を与える人材であること。

5 佐藤氏の主な実績

(1) 教員としての教科指導力、進学指導力

新設後まもない県立柏陽高校に数学科教諭として赴任し、数年で東京大学、京都大学等の難関大学への進学実績をあげるなど、その指導ぶりは今も語り継がれています。

(2) 校長としてのリーダーシップ

県立柏陽高校勤務の後、複数の新設校の立ち上げに参画し、県立湘南高校教諭、教頭、神奈川県教育庁教職員課課長代理等を経て、県立神田高校校長及び県立柏陽高校校長を歴任し、県立高校校長会会長としてもリーダーシップを発揮しました。

(3) 理科教育、科学教育実践の経験

県立柏陽高校校長として、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の5年間の指定期間中に、多くの先端科学技術分野の研究者・技術者等と連携した科学教育を実践、その結果、同校の国公立大学合格者数を71名（平成15年）から109名（平成19年）に急増させるなどの実績を残しました。

6 本人コメント

横浜サイエンスフロンティア高校の高邁な教育理念を具現化し、教育活動を通して、生徒・保護者・市民の皆様方の期待に応えた成果を出し、皆様方に満足と納得していただけるような結果を出すことが私の職責と認識しております。

理念の実現までには幾つかの困難を伴うかもしれませんが、「画期的で存在価値の高い学校」との評価がいただけるよう、関係者・関係機関からの叢智を賜り、活かし、学校をあげて全力を傾けてまいります。

参 考 横浜サイエンスフロンティア高校開設準備室組織図

